

# 小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 25

2018年3月10日（火）発行

発行責任者: 草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所: 〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

## 小平の地で —白梅学園の方向—

白梅学園大学・短期大学企画調整部長 本田百合子

私が小平の地に初めて来たのは今からおよそ46年程前のことになる。国分寺駅から西武国分寺線に乗って鷹の台駅に向かった。国分寺線が単線であることにまず驚いた。「単線？1時間に3本？」不便な電車だなど、これから住むことになるだろう土地と都会との落差に心もとなさをおぼえながら鷹の台駅に降り立った。鷹の台の駅ホームにはガラスもない木枠の窓があり、そこから現在の中央公園。その当時は「日本蚕糸科学研究所」の桑畑が見渡す限り広がっているのが見えた。額縁の向うに牧歌的な絵画の世界が広がっているようで、「不便だけれど、ここ好きだな」と、心もとなさが長閑な気持ちに変わっていったのを今でも思い出す。その後結婚して玉川上水近くに居を構えてから40数年の月日が経った。

その間に住宅が増え、マンションも建築され、林も少しずつ減っていった。しかしその変化の中にあっても四季折々に移り変わる上水の様子。わずかだが残っている武蔵野の雑木林。遠くまで見通せる空の広さ。それらがなおも私を小平の地を大好きにさせている。

そして、この地がその後の勉学、仕事に大きく関わってくるようになった。

結婚後、改めて保育士資格、幼稚園教諭免許状を取得し、保育の道に進もうと白梅学園短期大学に入学、卒業。その後国分寺で幼稚園教諭としてしばらく働くことになった。

そして、保育現場での仕事を辞めて数年後、縁があったのだろう、白梅学園に事務職として入職し、この3月で退職を迎えることになる。

白梅学園では、短大・大学の企画調整室、そして中学・高校事務室、法人企画室と勤務をしてき

た。その中で白梅学園がいかにか地域と密接なつながりを持った活動を展開しているかを強く感じる事ができた。

高校における地域でのボランティア活動。大学・短大において学生、教員が長期間続けている「子育て広場」「発達障害支援」「西地区・地域ネットワーク」「発達相談室」等の活動。小規模な学園ではあるが、それぞれの部門で地域とのさまざまな取組を地道に続けている。

ここ数十年間の経済、社会の変化に伴い、子ども、高齢者を取り巻く環境は大きく変わってきている。子育て支援の問題、高齢者の介護、看取りの問題等、社会における世代を超えた支援の取組の必要性が増している。そのような状況にあって、『西地区・地域ネットワーク』の取組が地域の包括支援として重要な役割を果たしていることを改めて認識している。

行政による取り組みは当然だが、私達は行政に頼るだけでなく、地域の住民の活動、地域の学校における学生、教員の取組、それらが有機的につながっていくことを視野に入れて包括支援の問題を考えなければならない時期にきていると思える。私自身パーキンソン病の母を6年前に引き取って

### 小平西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

介護にあたっている身として、地域における包括支援は決して他人事ではない問題である。

白梅学園においても、どのような教育を行い、どのような学生を社会に輩出していくか、学校の教育・研究における地域連携の取り組みが今後より一層重要な課題となってくるだろう。教職員ひとり

一人がその課題を自分事として受け止めていかなければならないと考えている。

私は3月に退職するが、今後も小平の住民であることに変わりはない。今後、大好きな小平の地でどう生きていくか、焦らず、しっかりと次の踏み出し方を考えていこうと思う。

## 小川駅西口周辺の街づくり、 市民の声を大きく反映させていくべき時に

### 第170号 西彦

住民に住みよく行き届いた賑わいある安全・安心の地域のまちづくりに、市民・住民の声を大いに反映させ、実現させていきましょう。現状を簡潔に報告すると・・

小川駅西口地域で、今年が「西口再開発」の正式なスタートの年になろうとしています。小川駅西口に約1.2haの敷地を確保し、コミタクはじめバス、タクシーなどが入る広場、市民が使う公園や道路を確保し、駅に隣接して5階までは商業床・非物販サービス床、その上には高さ28階のマンション住宅が入るタワービル、が建つ案が出されています。施工主は再開発事業組合です。これを核にしなが、隣接周辺区域(小川西町4丁目)では、まちづくり協議会(市まちづくり課が主催)も発足し、中宿商店街などとの連携の在り方などの模索が始まっています。誰にも使いやすい駅と町を作るチャンスです。

また、西武鉄道が小川駅舎の改築も進める計画を持ち、市との協議も始まっています。駅には東西に渡る通過道路も予定されており、市民に安全・便利な親しみや

すい駅舎の在り方には、利用者市民・学生・高齢者・障がい者などの声が不可欠になっています。

さらに同駅周辺のより広い地域では、3・4・10号線(こぶし通り)が小川東町1丁目地域を地下通過し、6小通りでつながる計画(約530m)が、「都の実施のための10年計画」に載り、その道づくりの説明会が3月に予定されており、地域住民の生活がどうなるのか、見極めていかなければなりません。府中街道に面したブリヂストン工場の広大な工場跡地がどうなるのか? 大災害時の府中街道をはじめとした道路事情への影響を含めて不安の声が出されています。

これらは全市的な、近未来の問題でもあり、西地域ネットワークでも関心を寄せていかなければならないと思います。今後もそれぞれの事業の進行状況などお知らせします。ご意見ご質問などもお寄せいただければ幸いです。

## 第28回地域懇談会報告

地域懇談会は3ヶ月に1回、白梅学園大学を会場に小平西地域の交流の場をつくる目的で開催してきました。最初の全体会でその時々トピックなどをテーマに、講演会や上映会を行っています。12月19日(火)に開催された第28回懇談会では地域にお住まいで、子どもの豊かな遊び場づくりに取り組んでいる足立隆子さんにお話をいただきました。

### 「子どもの遊びと家族の成長」

#### 足立隆子 (NPO 法人 日本プレイセンター協会理事)

こんばんは。今日は私の取り組んでいる「プレイセンター」についてお話しさせていただきます。

私は最初、子どもの外遊びの場であるプレーパークに着手しました。それはもともとデンマークが発祥の地でした。それがイギリスやアメリカに広がり、1960年代後半に日本にも広められてきています。1966年の「冒険遊び場交流会」を踏まえて、小平にもプレイパークのような取り組みが必要であると小平市にスタートさせました。初

めのうちはほとんどの親が受け身の参加で、どうしたら主体的に運営の担い手になってもらえるか悩みました。

そんな時に出会ったのがプレイセンターという活動です。このプレイセンターは1941年にニュージーランドで生まれた活動で、子どもが自由に遊ぶことやコミュニティのみんなで子育てをすることを基本としました。柱としては①「子どものやりたいことを大切に」、②「親同士の学び合い-子どもと一緒に家族が育つ」、③「親の共同運

営とスーパーバイザーの存在」を位置付けて、子育てが楽しくなるようにしてきました。取り組みを継続する中で、子どもが大きくなっても親たちが地域の大人としてプレイセンターの支援者・指導者として活動に参加してくれる人も増えてきています。

プレイセンターでは他者(わが子を含めて)の尊重を学びます。自分で選ぶ遊びはその子のやりたい気持ちを尊重します。お絵描きなどの遊びの中にも自分を表現することの大切さを理解する学びがあります。プレイセンターには「子どもが最初に出会う教師は親」という考えがあります。専門家に委ねるのではなく、わが子を主

体的に育てていく責任を持つことの大切さを、実習の中から獲得していきます。それを孤独にやるのではなく、信頼できる仲間と楽しくやっていくことで、心の負担が減ります。

なおプレイセンターは全国に15か所あって様々な形態で運営されていますが、国分寺を中心として行っている「プレイセンター・ピカソ」はその草分けでもあります。

足立さんのお話後いくつかの連絡事項を受けて、4つのブロックごとの懇談会に入り、8時過ぎまで居場所づくりなどについての懇談が行われました。



## 「きよか」のクリスマス会

宮本美子 (きよかスタッフ)



以前から食事の用意を一緒にしていた谷原葉子さんが CD も出すほどのシャンソン歌手だと知って、クリスマスソングを歌ってもらいたいと思っていました。阪神大震災を追悼する『ひまわりの涙』という CD です。彼女は「この頃、ずっと歌っていないし・・・」と少しためらっていましたが、当日のいつもより念入りなメーキャップと、薬指と人差し指につけられた大きな指輪に、歌手としての意気込みを感じました。

「きよか」では、クリスマス用に鶏手羽もとの唐揚げをプラスしたお食事でも、みんなのおなかも満たされて、雰囲気も盛り上がり、谷原さんの登場となりました。私のキーボードの伴奏で、歌詞はパソコンで打ってみんなに配りました。『赤鼻のトナカイ』『ホワイト・クリスマス』『サンタが



街にやってくる』と歌いましたが、『ホワイト・クリスマス』では、谷原さんのソロの歌声をはさみ、他の曲は全員で歌いました。

少し歌うともっと歌いたい、という気持ちになって「広島さん、ハーモニカ持ってきてないの？」とリクエストがあり、広島さんのハーモニカの伴奏で『きよよこの夜』『お正月』と歌い、盛り上がりました。広島さんは各調のハーモニカと模造紙に大きく印刷した歌詞をいつも持ってきているので、すぐに伴奏して下さるのです。今回もにぎやかに盛り上がったクリスマス会になりましたが、歌の力は素晴らしいものでした。

# 2017 年度白梅子育て広場シンポジウム開催

## シンポジウムリーダー宮本怜奈(保育科2年)

白梅子育て広場は、2005 年より白梅学園大学・短期大学の学生が中心となって取り組んできた地域支援の活動の一つです。毎年 1 年のまとめとしてシンポジウムを開催してきましたが、12 月 16 日(土)、第 12 回シンポジウムを開催し、高校生や地域の方々を含めておよそ 250 人に参加していただきました。

今年度は「白梅子育て広場を見つめ直して～私たちのこれから～」をテーマに行いました。その理由は、今年度は白梅子育て広場をより良くしたいという思いがあり、企画等様々なことについて見直しひとつひとつの意味を考えました。この過程の中で得たものを今回のシンポジウムで伝えたいと思い、決定しました。

第一部では、2017 年度の白梅子育て広場の活動の報告とこれからの課題、活動の中で生まれた思いや学びについて学生陣の発表をもってお伝えしました。第

一部を通して、今年の活動を振り返ることができ、来年度への活動のビジョンを明確にすることが出来ました。

第二部のパネルディスカッションは、「なぜ、今“地域”で子育てなのか？」をテーマに行いました。テーマ設定の理由は、子育て支援団体から見る「子育て」とは何なのか？私たちの活動は、その助けになっているのか？学生自身、それぞれを意識しながら活動をできていたのか？今後も地域で活動していくために、子育てにおける地域の役割をこのタイミングで見直す必要があると感じたためです。各方面で子育て支援、地域支援に携わる4名をパネリストとしてお迎えし、ディスカッションを行いました。第二部を通し、ひとりで子育てを行うのではなく、地域社会と一緒にいくことが大切だと改めて感じました。また、まずは自分の町の良さに気づいてから活動を行うことも必要であると学びました。

4月 28 日午後にあそぼうかいを企画しておりますので、是非足を運んで頂けたらと思います。



## 分かった会の思い出

分かった会は設立して 4 年目になりました。今年の春も 7 人全員が都立・私立高校の入試に合格しました。「分かった会の思い出」を書いてもらいました。その一部を紹介します。(奈良)

### ●受験勉強だけでなく検定も合格

私は中 3 の初めから分かった会に参加しました。講師の方々には受験勉強だけでなく英検や数検などの検定取得のアドバイスもしてくださいました。私は分かった会のおかげで「第一志望の高校に合格する」という目標と「英・数・漢検 3 級を取得する」という目標を達成することができました。本当に感謝しています。 HT (男子)

### ●先生に感謝！

受験勉強がきつくてすごくつらかったとき、分かった会に来て先生や友達と話したり勉強したりすると自然と笑顔になれたと思います。いつも温かく迎えてくださっ



たり、分からなくて困っていたときは先生の方から声をかけてくださってとてもうれしかったです。 EM  
(女子)

### ●初めは面倒と思ったけど・・・

最初は「めんどうくさっ」と思っていたのですが、毎週

## 上宿小学校青少年祭 西の風・防災クエスト

私は今回、白梅学園大学教養基礎演習の活動のフィールドワークの一環として上宿小学校青少年祭で実施された西の風・防災クエストのボランティアに参加させて頂きました。

活動内容は、道路の交通整備や、防災食を作り参加者や地域の方々への配布、賢者のアシスタントとして防災クエストの受付をやらせて頂きました。

個人的に一番驚いたことは子どもたちや地域の方々の防災訓練に対する参加意欲です。AED・初期消火の体験や防災クイズなど、スタンプラリーをしながら数々のミッションをクリアしていく子どもたちのたくましい姿や「防災クエストやらせてください！ 毒の洞窟クリアしたのでスタンプ押してください！」とキラキラした笑顔の子どもたちを見て、私も嬉しくなり、参加して本当に良かったとやりがいを感じました。

災害を身近に感じつつある今、自分が災害を生き抜

行くようになりだんだん通うのが楽しくなりました。2年のときは大変ご迷惑をおかけしました・・・。分かった会に通り続けて本当にたくさんのごこと、解き方を教えていただきました。高校の授業で分からないことがあったらまた教えてください。 KM

(女子)

### 森田 早悠里 (家族・地域支援学科 1年)

くために、また周囲の人を災害から救うためにも、地域の人たちとの交流が図られる防災訓練には積極的に参加するべきであると感じました。ただ参加して終わりにせず、「いざという時にどうすれば良いか」ということを実際にイメージしてみることが何よりも大切であると感じました。

このボランティアに参加する前、私は2年時に進路変更をするか迷っていたのですが、今回の活動を通して実際に子どもたちの笑顔にふれて、小学校教諭への希望が大きくなり、意思を固めることができ、今後の自分の進路選択にも繋がりました。

子どもたちの防災意識を高める手助けや地域の絆を深める手助けが少しでも出来ていたのなら幸いです。今回子どもたちから学んだことはかけがえのないものであり、このボランティアは自分にとっても、とてもいい経験になりました。子どもたちにはこれからも防災訓練に意欲的に参加して欲しいと思っています。また機会があればぜひ参加したいです。

### 第2回 地域の輪を広げるための地域交流会 (第一ブロック主催)

## 私たちの町ってどんな町？

### ～小川西町の良いところ探しワークショップ～

### 瀧口優 (第一ブロック世話人・白梅学園短期大学)

2月5日(月)18時より、小川西町にある中宿公民館において「第2回地域の輪を広げるための地域交流会」が開かれました。参加者は30名で、はじめてこうした場に参加したという方もいます。小川ホームとたいよう福祉センターの進行で、ワークショップが始まりました。ファシリテーター(進行調整役)として星槎大学大学院教育実践研究科教授の三田地真実(みたちまみ)さんをむかえて、お互いの交流とアイデアの交流を行いました。三田地さんは、小平四小・小平四中出身で、地元の都立高校を卒業後、教員・言語聴覚士のお仕事をされた後、渡米、オレゴン大学博士課程を終了して、現在は教育・医療現場にファシリテーションと応用行動分析学を広める活動をしています。

今回は、専門のファシリテーションの立場からワークショップを企画してくれました。現在は、「東京ファシリテーションクラブ小平」という小平市民による小平でのファシリテーションの活動にも関わっています。

まずはじめの自己紹介では、①名前と②地域に住んで何年になるか、③どこに住んでいるか、④なんで今日のことを知ったのか、に絞って、30人が20分以内に紹介し、お互いを理解するコツを教えてくださいました。それからグループに分かれて小川西町のおすすめを出し合いました。あそこの店は美味しいとか、いろいろな情報を持っている、こんなものを売っている、こんな施設がある等々、丸い段ボールの簡易テーブルの上で模造紙に書き

あいました。ひととおり時間を取って、一人を残して他の段ボールに移り、そこでまた出し合ったものを交流して、いかにたくさんの「良いところ」があるのかお互いに認識できました。私の参加した円卓ではもっぱら食べることや飲むことに話題が集中し、タウン紙が欲しいねと言う話題にもな

りました。

全体に戻って小川西の「売り」を出し合い、最後にファシリテーターの三田地さんからまとめを行ってもらいました。小川西町を歩いてみたくなるような集いとなりました。第3回が楽しみです。

## 餅つきを体験して

### 井上彪雅（小平五中生徒）

餅つきに参加してとても良い経験になりました。餅つきを体験したきっかけは、親に「餅つきの手伝いをしてこい」と言われたのがはじまりでした。僕は何をしたら良いか全くわからなかったので、遠くから見ていました。そうしたらおじさんに「やりな」と言われて参加しました。

餅をついていて何回も変なところでついたり、違う場所を叩いてしまったり、何回もミスをしてしまいましたが、何度もやっているうちにうまく叩けてきてるなと感じました。たぶん周りの人から見たら下手くそに見えていたと思いますが、僕的にはうまく叩けていると感じました。

僕は餅つきをしていて、地域の方々とのお話が多くなってきました。地域の方々と話ができるととても楽しく、とても良い経験になったと思います。おじさんたちの昔話を聞いていても楽しかったです。地域でやっている行事がこんなに楽しいことに気づきました。僕はこれから積極的に地域の行事、活動にできるだけ参加しようと思います。とにかく餅つきが楽しかったです。



### 白梅清修中学校

## English Expo. 開催しました！

### 英語科 川田 裕子

2月17日(土)、清修校舎では、生徒たちの元気な歌声が響きわたりました。“Let’s start at the very beginning A very good place to start～♪ Do (Doe) - a deer a female deer ♪ Re (Ray) - a drop of golden sun ♪～”『Do Re Mi(ドレミの歌)』を中学生全員で英語で歌い会場を沸かせました。

本校では中学生は週7時間の英語の授業を行い、そのうち5時間はネイティブ教員による授業を行っています。中学に入ってから本格的に英語を学び始めると

いう生徒がほとんど。そんな生徒たちも、清修ライフで英語を使う機会を多く持ち、授業以外の休み時間や放課後も、ネイティブ教員と多く触れ合うことによって、積極性とともに英語のコミュニケーション能力を身に付けていきます。

実用英語検定にも多くの生徒がチャレンジし、今年度でいえば、中学2年生は60%を超える生徒が3級合格、約20%が準2級合格、中学3年生は半数以上の生徒が準2級合格、そして約20%が2級に合格しています。

そして生徒たちは、毎年2月に1年間の英語の授業の集大成として、このEnglish Expo.という大きな舞台上で、保護者や新入生の前で発表を行います。第一部で、中学1～3年生全員で英語の歌を歌い、さらには各学年の代表者による英語でのスピーチを行います。第二部で、学年ごとに別れスキット(英語での寸劇)や、プレゼ



ンテーションを行います。選ばれた生徒ではなく全員が舞台にたつこと、これも少人数教育を行っている清修ならではの魅力ではないでしょうか。また、生徒とネイティブ教員によって英語の授業中、そして休み時間や放課後の時間を使い、すべての準備や練習が行われています。

## 笑顔で生き生きと暮らせる地域を目指して

地域包括支援センター けやきの郷 三島 洋 野村 典子

平成29年4月から小平市の各地域包括支援センターには生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）が配置されました。地域包括支援センター けやきの郷の生活支援コーディネーターは三島と野村の2名で、様々な地域の活動に顔を出させて頂いています。今回は、当包括での生活支援コーディネーターの取り組みを紹介させていただきます。

2月1日に第1回地域支え合い交流会を黎明ホールで開催し、66名もの地域の方々にご参加頂きました。地域支え合い交流会ではさわやか福祉財団の講師をお招きし、認知症になっても、障害があっても、誰もが住み慣れた地域で最後までいきいきと暮らせるには助け合いが必要であり、地域で支え合う仕組みづくりが大切であるということ学びました。また、「地域ではどんな助け合い活動が足りないのだろうか」「地域でできる助け合

生徒主導で、生徒の創意工夫で行事を創りあげること、清修が創立当初から掲げている教育理念にも適っています。「厳冬にあっても凜として咲く白梅のように、清々しい姿で学び修め、気品とフロンティア精神を兼ね備えた女性を育てる(清修の教育理念)」。清修はこれからも、このような女性を育てていきます！！

い活動は何だろうか」ということをグループで話し合い、皆様多くの気づきを得られていました。この交流会は計3回開催予定です。最終的には地域をよくしたいと思っている人たちが集まり、地域の課題等を一緒に考えるための「協議体」を立ち上げる予定です。

今後日本では急速に高齢化が進み、2050年には「一人の若者が一人の高齢者を支える」という肩車型社会が訪れることが予想されています。高齢者が住み慣れた地域の中で元気に暮らしていくためには地域での助け合いが必要であり、地域ごとに高齢者の方の社会参加や生活支援の体制を整えていく必要があります。笑顔で生き生きと暮らすことができる地域を目指し、支え合いの輪を広げる活動を一緒に行っていきませんか。交流会へのご参加をお待ちしております。

## 小平学・まちづくりシンポ(2018年2月17日開催)

山路憲夫(白梅学園大学 小平学・まちづくり研究所)



安心して自宅で最期を迎えるためには、どうすればいいのか。さしあたっての高齢化のピークとなる2025年に向け、否応なく在宅で最期を迎える人々が増え続けています。小平市での在宅看取りの現状と課題を考え

ようと、白梅学園大学小平学まちづくり研究所第二回シンポジウム「人生の最終段階をどう迎えますか——小平市での在宅看取りの現状から」が2月17日午後、小平市福祉会館市民ホールで開催されました。参加した市民は約350人。

2005年から小平市で先駆的にガン患者などの在宅



看取りに取り組んでこられた山崎章郎・ケアタウン小平クリニック院長が基調講演、病院でなく家で死ぬことの意味として「いつでも自分が主人公であり、過剰医療が避けられること、住み慣れた環境で苦痛を軽減できること」を挙げ、地域で在宅で緩和ケアを受けられる必要性を訴えました。

「小平すずきクリニック」院長の鈴木道明医師は在宅で生活し続けたいという人々に「治し、支える」医療の役割と課題を語り、新田國夫在宅療養支援診療所全国

連絡会会長は在宅での看取りの体制を作り上げることは地域でのまちづくり、地域づくりとしました。

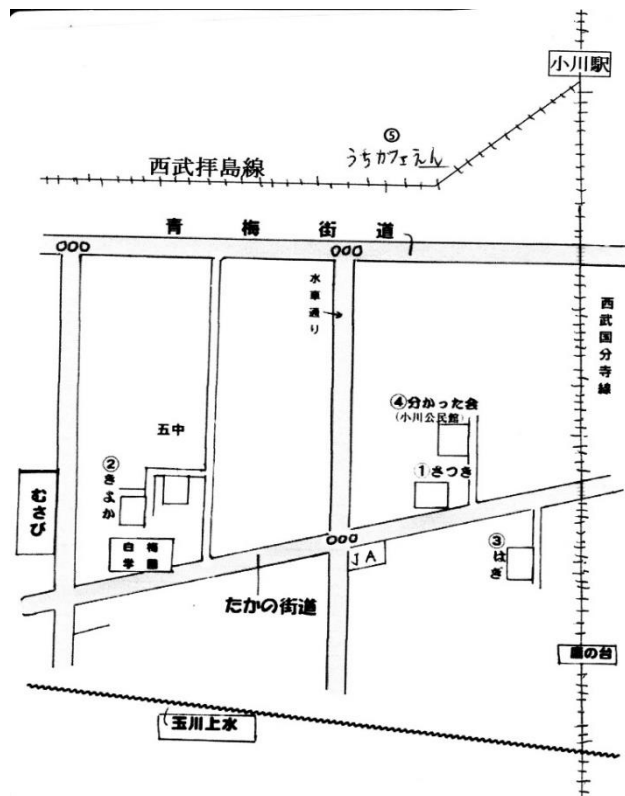
家族を看取った二人の家族の方も登壇、最後まで住み慣れた地域で、在宅で看取ることが出来た思いを語られました。

在宅での看取りについて、ほとんどの市民には経験のないことであり不安も強い。今回のシンポジウムは、そのあり方を考える問題提起になったようです。

## 皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～⑤)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております! (右の地図を参照)

- ① ほっとスペースさつき  
毎週火曜と木曜 10:00~16:00  
問い合わせ: 渡辺 穂積  
TEL: 042-344-7412
- ② ほっとスペースきよか  
毎週月曜 10:00~15:30  
問い合わせ: 石川 貞子  
TEL: 090-7732-2089
- ③ アットホームはぎ  
毎月 7, 17, 27 日: 14:00~17:00  
問い合わせ: 萩谷 洋子: 042-342-1738
- ④ 「分かった会」小中無料学習教室  
毎週木曜日 18:00~20:30 (小川公民館)  
問い合わせ: 奈良 勝行 (講師募集中!)  
TEL: 090-4435-4306
- ⑤ 子育てサロン「うちかフェェん」(小川町)  
毎週月・水・木・土 10:00~15:30分  
問い合わせ: 伊藤絹代  
TEL: 090-5441-6219



### 西ネットの今後の予定

学内会議: 4月10日(火)  
世話人会: 5月08日(火)  
懇談会: 6月12日(火)

### イベントの予定

- 4月28日(土) 13:30~白梅子育て広場 遊ぼう会
- 5月3日(木) ~5日(土)  
第8回ふくしまの子ども保養プロジェクト (小平中央公園)
- 6月12日(火) 18時~西ネット第30回懇談会



西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	学内世話人
1	西 克彦・丸山皮三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳・山路憲夫
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・久 保田進・穂積健児・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 瀧口眞央・西方規恵 牧野昴哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

**お願い**：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出下さい。

**投稿募集**：このニュースレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール：[everonward.nara@xd5.sonet.ne.jp](mailto:everonward.nara@xd5.sonet.ne.jp)

**編集後記**：「小平西ネット」も広く地域に知られるようになってきています。近隣の地域センターや公民館などにもこのニュースを置いてもらい、それを読んで参加する方もいます。私たちは、地域の取組みをつなぎながら顔の見える地域づくりを目指しています。皆様の積極的な参加をお願いします。原稿を寄せて頂いた方々、ありがとうございました(瀧口)。